

基本目標

地域で安心・安全に暮らしていくための体制づくり ささえあい〜共助〜	暮らしを支える福祉のネットワークづくり かたりあい〜協働〜	認め合い・理解し合える意識づくり ふれあい〜共生〜	出会いのための人づくり・場所づくり であい〜拠点〜
---	---	-------------------------------------	-------------------------------------

基本方針

② 安心・安全なまちを築こう	① 防災に対する意識を高めよう	② 福祉サービスの理解と関心を深めよう	① 地域を支える基盤づくりをしよう	② お互いに認め合う関係を築こう	① 住民のつながりを深めよう	② 出会いと交流の機会を広げよう	① 地域の担い手を育もう
----------------	-----------------	---------------------	-------------------	------------------	----------------	------------------	--------------

基本施策

③ 悪徳商法等犯罪被害対策の啓発	① 見守りネットワーク活動の推進 ② 子ども・高齢者に対する交通安全啓発	③ 災害ボランティアセンターの体制づくり	① 自主防災組織の活性化と災害時の連携強化 ② 災害時要援護者の把握と情報共有	④ 保健・医療・福祉の連携強化	③ 公的福祉サービスの充実 ② インフォーマルサービスの充実 ① 福祉サービス利用に関する情報提供・情報交換	③ 身近な相談・支援窓口体制の充実	② 地区社協活動の機能強化 ① 社会福祉協議会の基盤整備	③ 子育て環境の充実	② 高齢者・障害者を地域で理解する機会づくり ① 社会教育・福祉教育の推進	③ 小地域での交流の機会拡大 ② 声かけ・あいさつ運動の推進 ① 地域コミュニティの活性化	④ 小地域で集える場所の確保 ③ 安心して遊べる場所の充実 ② あったかふれあいセンターの機能強化 ① 社会参加と健康・生きがいづくり	③ 地域の伝統文化・行事への参加と継承	② 福祉団体・サークルの活動活性化 ① ボランティアの育成
------------------	---	----------------------	--	-----------------	--	-------------------	---------------------------------	------------	--	---	--	---------------------	----------------------------------

地域福祉活動計画 推進項目

高齢者見守りネットワーク活動の促進 交通安全教室等の実施 関係機関と連携した犯罪防止活動の推進	緊急時の役割分担と連携体制の構築 見守り・助け合い支援システムの活用 災害ボランティアセンターの体制構築	情報提供・情報発信の仕組みづくり NPO・任意団体の福祉サービスとの連携強化 地域包括支援ネットワーク構築に向けた取り組み 保健・医療・福祉の連携体制構築	地域福祉推進団体としての役割強化 地域性に応じた地区社会福祉協議会機能の強化 民生児童委員活動の推進	福祉教育活動の実践 当事者組織・グループの活動支援 子育て応援活動の推進	多世代交流活動の実施 小単位での仲間づくり活動の推進 地区のおきやくのあり方工夫	障害者・高齢者の集い活動の実施 あったかふれあいセンターのサテライトを実施 子ども会の活動支援 高齢者・障害者・子どもの居場所づくり	ボランティア養成講座・研修会の実施 地域行事への住民の参画促進
---	--	--	--	--	--	---	------------------------------------

基本目標の取り組み例

であい

＜身近な場所でふれあいを深める＞

地域では、住民の方々のふれあいの場として、さまざまな活動が展開されています。各地域で取り組まれている「サロン活動」や「いきいき百歳体操」は、地区社協や地域住民が主体となり、ボランティアの協力のもと、公民館や集会所などを活用し、住民が自分自身の健康づくりや介護予防を目的に会食やレクリエーション、ときには勉強会など取り入れながら地区の特色を生かしながら、運営しています。また、保育園や小学校と連携し、園児や児童と高齢者との交流もあり、世代を超えた交流の場として親しまれています。



公民館や集会所を活用して、子どもから高齢者までみんなが気軽に集まることのできる憩いの場づくりを支援し、こうした活動の担い手や地域で気軽に集まれる機会づくりを目指していきます。

ふれあい

＜その人らしさを認め合う関係を＞

高齢者や障害者に対する理解を深めることを目的に、市内にある学校を対象に、福祉学習や車椅子体験学習を中心とした福祉教育を行っています。子どもは日頃の生活の中で支え合いが身近にあることを感じています。体験学習は、支援が必要な人の立場になって考えること、また、介護する人の立場になって考えることを目的として行っています。自分の体で感じて学習したことにより、「相手に怖い思いをさせないように」「不安になる気持ちがわかった」など多くの感想があり、相手の立場になって考えることの大切さを、体験することにより感じていただいています。



子どもの「ふくしの心」を育む福祉教育学習を取り組み、思いやりや支え合いの心を育み、10年後、20年後の担い手を育て、いつまでも活力ある地域づくりを目指していきます。

かたりあい

＜暮らしを支えるネットワーク＞

地域で暮らしていくためには、住民の力だけではなく、福祉を支えるサービスの力も必要です。介護事業所を対象とした認知症ケア実践講座は、介護職員等の資質向上を目的としていますが、サービスの提供内容が異なる事業所の職員が合同で集まる研修会を企画し、受講後に「学んだ技術を実践していること」「独自に工夫していること」など情報交換や連絡会を開催することにより、事業所間の連携が図れています。



暮らしを支える力は、様々な機関や住民が共に学び、協力・連携することによって生まれてきます。そのつながりをより一層広げ、ネットワークを築き支え合う地域づくりを目指します。

ささえあい

＜見守り支え合いのある地域へ＞

認知症の不安を少しでも和らげるために、まず認知症がどのような病気かを知っていただき、見守りや支え合いの大切さを感じていただくことを目的に地区で学習会を行っています。高齢者の現状や課題、認知症の症状などを寸劇を交えてわかりやすく説明し、意見交換の場では「お互いさま」という声に参加者から聞こえ、地域で支え合う体制づくりの第一歩が踏み出されています。



高齢者、子ども、障害者、また支援が必要な方はたくさんいます。こうした学習会を各地域で行いお互いが支え合い、いつまでも住み慣れた地域で暮らしていくための体制づくりを目指します。